

「豚インフル世界大流行」の軍資金を手にしたオバマ

Obama gets billions for 'pandemic' Swine Flu



F・ウィリアム・イングドール

(翻訳：為清勝彦)

By F. William Engdahl

(Japanese translation by Katsuhiko Tamekiyo)

2009年6月25日

「世界母乳育児週間」、「世界自殺予防デー」、「世界狂犬病予防デー」のニュースに埋没した小さな記事で、WHO（世界保健機関）は、「検査で確認された」H1N1型（A型インフルエンザウイルスの亜型の一つ）の症例の推定件数の最新値を伝えた。今年4月にメキシコのベラクルス州の養豚工場で一人の子供が病気になり、豚から人へ感染が拡大するという新型「豚インフルエンザ」が致命的に危険であると世界中に喧伝されて以来、世界中で約5万5千人が感染したそうだ。それでもアメリカ政府は、まるで恐怖の1918年「スペイン風邪」世界大流行の再来に備えるかのごとく、対策に力を入れている。どうも実態と政府の動きが噛み合っていない。何か別のことが起きているのだろうか？（訳注：1918年のスペイン風邪の感染者は世界で6億人、死者は4～5千万人といわれる）

WHOも米国CDC（疾病対策予防センター）も、ロベルト・コッホ細菌研究所も、パスツール研究所も、世界中のどこの政府も民間機関も、いまだかつて「新種のインフルエンザA型H1N1ウイルス」と公式に名付けられたウイルスを科学的に分離できていないし、電子顕微鏡法で撮影できていないし、化学的性質を羅列することもできていない。それでもWHOは、地球的な大流行を意味するレベル6の警告を発するのにふさわしいと判断したのだ。

パンデミックのゴングを鳴らした WHO

WHO に関するほとんど全てのマスコミ記事で都合よくぼかしてあるのが、「パンデミック」宣言の定義である。公式な定義を読むと、一定の病気の症例を報告する一定の WHO 地域事務局管轄地域における国の数を根拠にしているだけであることがわかる。具体的には、パンデミックの一段階下であるフェイズ5の定義は、一つの WHO 地域事務局管轄地域において2カ国以上で持続的に社会全体で発生していることである。そして、フェイズ6のパンデミックは、フェイズ5の状態に加え、もう一つの WHO 地域事務局管轄地域で少なくとも1カ国で持続的な発生があることと定義されている。

WHO は、6月11日、まるで勝ち誇ったかのように、事態は公式にフェイズ6のパンデミックを宣言する WHO の基準を満たしたと発表した。つまり、一定の数の国で症例が見つかったということである。ハーバード大学で調教されたマーガレット・チャン WHO 事務局長は、「現時点の状況としては、患者の圧倒的多数は軽い症状であり、多くの場合は治療も必要とせず、すぐに全快している」と言った後で、「世界的に、死者数はわずかである。重症または致死的な感染数が急速急激に増加するとは予想していない」と付け加えた。それでも警告を出すのは何故だ？ 突然変異？ 何の？

さらにチャンは、今まで H1N1 が原因で死んだとされている全員とまでは言わないがほとんどは、伝染病の専門用語で「日和見感染」と呼ぶものだった可能性も認めている。すでに病気を重く患っていた人がインフルエンザまたは風邪を移され、合併症で死亡したということだ。H1N1 が致死的だという話だったから、一般の人々もパニック状態になったのであるが、その前提が違っていただけになる。「全員ではないが、多くの重症ケースは、慢性疾患を抱えた人々であった。代表的なものとして、呼吸器疾患、特にぜんそく、循環器疾患、糖尿病、自己免疫不全、肥満があった」とチャンは述べた。こうした死亡が、H1N1 による死者として集計されている。誰も細かいところまで見ようとしない。以前であればエイズの死者数として集計されていた人が、いま流行りの H1N1 の犠牲者として集計されるため、その分エイズの死者数は減るだろう。

WHO 事務局長マーガレット・チャン博士は、パニックを誘発するような暴言を吐くチャンスをはにかんで逃すような人間ではない。つい最近も、ウィルスは「極めて落ち着いている」ことを認めながらも、鶏肉で広範囲に出回っている鳥インフル・ウィルス H5N1 とおそらく混合して致死的な形態に変化する「可能性」は依然としてであると脅した。「可能性」という言い方をすれば、地球に隕石が衝突して粉々に消え去ってしまう可能性と同じぐらい高いだろう。

パンデミック・マシンに給油するオバマ

米国では、オバマ政権は、豚インフル「軍備」予算として議会が計画していた金額の4倍（300%増し）の金額を議会に無理強いした。オバマ政権の議会操作によって、米国議会は、証明されてもいないインフルエンザ大流行に対し、目玉が飛び出しそうな76億5千万ドルの予算を承認した。

奇妙なことに、この金額は、イラクとアフガニスタンでの軍事支出のための追加予算案1,060億ドルに含まれていた。米国の政策の優先順位として、豚インフルに対する戦いは、テロとの戦いやイラク人・アフガン人との戦いと同列になったみたいだ。

パンデミック予算の大半はHHS(米国保健福祉省)とCDCが使うが、州や地方組織のH1N1対応力を強化するために3億5千万ドルが織り込まれている。HHSとCDCに対し、2009年度支出分として15億ドル、「偶発的な緊急対応費用」として58億ドルが措置された。

この予算は、調査・監視を拡大し、医薬品の備蓄を増やし、ワクチンを開発・購入・管理するために使用される。

議会の要約によると、州と地方組織の3億5千万ドルは、公衆衛生部門が職員を雇ったり訓練する費用、診断設備の拡充、抗ウイルス剤や保護機器を連邦や州の備蓄から配給する費用、連絡体制の整備、発病報告のホットラインの維持、病院の収容能力の需要急上昇などの難題を解決するために使用される。

大幅な予算増にあたって、議会は、景気刺激予算や、生物兵器等の非伝統兵器に対抗する国防総省のバイオシールド計画の予算を奪うことはしないと決定した。新予算は、医薬品大手のロシュ社（ドナルド・ラムズフェルド愛用の抗ウイルス剤タミフルのメーカー）、グラクソ・スミスクライン（GSK）社、ノバルティス社、その他ワクチン製造のグローバル企業にとって、最高のカンフル剤となるだろう。

ドイツでの変わった警告

世界のどの保健機関が一番不必要なパニックを拡大することが上手かを競う国際コンテストに乗り遅れまいとして、ベルリンに拠点を置くロベルト・コッホ研究所は、国民に一斉ワクチン接種を煽るために必要な不安を煽る役目をしっかりと果たしている。伝染病研究のロベルト・コッホ研究所のエルク・ハッカー所長は、「ウイルスが既に変異している可能性がある。秋には変異したウイルスが北半球に拡散し、ドイツに戻ってくるかもしれない」と述べた。何とも恐ろしい話である。

こうした警告をするに至った科学的根拠をハッカーは示していないが、参加したジャーナリストも誰も質問しようと思わない。博士に失礼だと思ったのだろうか。

CDC と WHO でさえ、豚インフルエンザの症状は軽いと認めている。しかし、WHO、CDC、そしてローベルト・コッホ研究所も一緒になって、豚インフルエンザ H1N1 はもっと攻撃的なものに「進化する可能性」があると、我々をプロパガンダ爆撃し続ける。

ドイツでは 275 件の H1N1 症例が報告されている。しかし、それでも WHO と CDC も認めているように H1N1 ウィルスが存在することを確認する検査は行われていない。となると、どうやって、何のために報告されたのかと疑問を感じるしかないだろう。メルケル首相の名誉のために言っておこう。一人たりとて死亡原因として確認されていないウィルスのために、悪性の風邪と大差なく通常 5 日もすれば消える病気のために、納税者の巨額の金を対策費として準備するオバマ政権とは違い、少なくとも現時点ではメルケル首相は発狂していない。

もしかして、われわれは相当バカ扱いされてる？

元記事 Obama gets billions for 'pandemic' Swine Flu

by F. William Engdahl (URL <http://www.engdahl.oilgeopolitics.net/>)

Global Research, June 25, 2009

<http://www.globalresearch.ca/index.php?context=va&aid=14086>

© F. William Engdahl, Global Research, 2009

この記事は、著者 F・ウィリアム・イングドール氏のご好意により日本語訳と公開の許可を頂いたものです。
This is the translation of the article by the author F.William Engdahl and presented to the public owing to his kindness.